

平成28年11月三木市教育委員会（定例会）会議録

◇ 日 時

- 1 開 会 平成28年11月16日（水）午後2時00分
- 2 閉 会 平成28年11月16日（水）午後3時45分

◇ 場 所 三木市役所 2階 職員厚生室

◇ 会 議

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 会議録の承認
- 4 議 案
議案第13号 平成29年度教職員人事異動等方針について
- 5 協議事項
協議事項15 平成28年度全国学力・学習状況調査結果保護者公表資料について
- 6 報告事項
- 7 その他
次回教育委員会定例会の開催日時について
- 8 閉 会

◇ 会議に出席した者の職氏名

教育委員	1番 委 員 長	里 見 俊 實
	2番 委員長職務代行者	井 口 徹
	3番 委 員	石 井 ひろ美
	4番 委 員	浦 崎 秀 一
	5番 委員（教育長）	松 本 明 紀
事務局	教育企画部長	西 本 則 彦
	こども未来部長	永 尾 勝 彦
	教育政策課長	大 西 真 一
	教育環境整備課長	貞 松 保 夫
	文化スポーツ振興課長	堀 内 基 代
	図 書 館 長	伊 藤 真 紀

学 校 教 育 課 長	横 田 浩 一
教 育 セ ン タ ー 所 長	大 東 豊
就 学 前 教 育 ・ 保 育 課 長	成 瀬 拓 生
子 育 て 支 援 課 長	井 上 典 子
教 育 政 策 課 主 査	五 百 蔵 一 也
教 育 政 策 課 主 任	橋 本 祥 子

傍 聴 者 0 人

1 開 会

委員長が、平成28年11月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

2 会議録署名委員の指名

委員長が、本日の会議の会議録署名委員に、浦崎委員と松本教育長を指名した。

3 会議録の承認

委員長が、平成28年10月臨時会（1日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。また、平成28年10月定例会（19日開催）の会議録について委員に諮ったところ、里見委員長から一部内容について修正を求める発言があった。委員長がこのことについて委員に諮り、全員一致で承認された。

4 議 案

【議案第13号】

平成29年度教職員人事異動等方針について

○横田学校教育課長が次のように説明した。

平成29年度三木市立小学校・中学校・特別支援学校県費負担教職員人事異動内申の方針を別添のとおり決定することについて、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条の規定により、委員会の議決を求める。県教委の平成29年度公立学校教職員異動方針を踏まえ作成している。昨年度の方針からの変更は無い。異動については、現任校に3年以上在勤した者を対象とし、7年以上の者は積極異動、9年以上の者は原則異動とする。今後のスケジュールは、12月に希望調査を行い、1月初旬に希望調査を基に学校長が作成した一覧を市教委に提出してもらう。1月中旬に学校長に対するヒアリングを実施し、調整を進める。

(浦崎委員) 新進の抜擢とはどういうものか。

(横田学校教育課長) 若い教員の力を校内の研究推進や教育計画等、学校の中心となる仕事に反映させていくことである。

(石井委員) 異動の対象者で、考慮する事項の中に教育実績があるが、何をもって判断するのか。

(横田学校教育課長) 学校、子どもに対する教育の中で、研究発表や生徒指導等中心となって取り組んだ実績である。

(井口委員長職務代行者) 年齢構成等バランスはどのように考えているか。できるだけバランスを考慮して配置いただきたい。

(横田学校教育課長) 各年代構成や男女比等を考慮しながら配置をしている。

(里見委員長) 各校長の意見を参考にとあるが、新進の抜擢等、市教委としての判断はどのようにするのか。また、人事異動には昇任、昇格も含まれるのか。

(松本教育長) 管理職は、市教委事務局で面接等を実施し、判断する。

生徒指導や教科指導に優秀な教員等は、校長の意見を尊重しながら、市教委事務局の学校訪問時の評価も加味して、最終案を作成する。人事異動には、昇任、昇格も含まれる。

(里見委員長)この方針を実際にどのように運用するかが重要である。

男女比や年齢構成のバランスも考慮しながら、人材育成という観点から新進の抜擢等に重点を置いて取り組んでもらいたい。

委員長が、議案第13号について採決を行い、原案のとおり可決された。

5 協議事項

【協議事項15】

平成28年度全国学力・学習状況調査結果保護者公表資料について

○横田学校教育課長が次のように説明した。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の保護者向け公表案を作成した。この中で全体の概要、各科目調査の概要、学習習慣や生活習慣と学力の相関関係及び市教委と学校の今後の取組を示している。

学力に関しては、全体的な傾向として、「知識」に関する問題(A問題)に比べ、「活用」に関する問題(B問題)の平均正答率が低くなっていること、平均正答率は、全国と比較して、小学校、中学校ともに±5パーセントの範囲内にあり、大きな差は見られないが、より細かく見ると、小学校はやや下回り、中学校は数学のA問題以外はやや下回っていること等を記載している。また、各科目の調査結果の概要において、定着しているものには○を、課題があるものについては▲を付けている。

学習習慣等に関しては、予習復習が定着していない、テレビゲームやスマートフォンに費やす時間が長いといった傾向を示すとともに、そうした生活習慣と学力との間に相関関係があることを明記している。

今後の取組として、指導方法の改善や補充学習の充実を進めていくことを述べ、家庭において「みきっ子家庭学習ガイド」を引き続

き活用し、学習習慣及び生活習慣の定着等に協力を依頼している。

また、重点指導資料を現在作成中であり、案を一部お配りしている。これは、平成28年度全国学力・学習状況調査結果の分析を基に、教員に対して授業改善に向けた手法を示すものである。第1部では、学力向上に向けた視点として、昨年度からの変更点は無く、「スパイラルを意識した展開」で定着を図ること、小中学校間で教科指導の連携強化を図ること及び振り返りを通して授業ごとの定着を確認することを示している。第2部では、課題のある内容の分析と手だてとして、平均正答率が低かった問題について、できなかった理由の分析と、指導に当たって注意すべき点を示している。12月の校園長会で各学校に配布し、実際に活用してもらうよう準備を進める。

(石井委員) 学力の向上に向け、課題となる項目を教科ごとに細かく書いていただいているが、それらに加え、今後の取組として、各教科においてどのような力が必要であるかなど、総括的な内容を最後に追加してもらえればより一層分かりやすくなると感じる。

また、学習習慣や生活習慣と学力の相関関係の箇所、例えば、テレビゲームやスマートフォンに費やす時間が長いといった傾向にあることについて、なぜそのような傾向があるのかといった検証を今後する必要があると感じる。

(井口委員長職務代行者) 学習習慣及び生活習慣の定着で、「家庭の状況に配慮しながらも、家庭教育の重要性について意識を高める取組を一層進める」とあるが、具体的にはどのようなことをするのか。

(横田学校教育課長) 校園長会や研修会を通じ、学校から電話や家庭訪問等でアプローチし、家庭との連携を密に取っていくよう指導していく。

(里見教育委員長) 総合教育会議において、学力の向上、家庭での学習習慣の定着について議論していることもあり、抽象的ではなく、具体的に記載すべきである。

(松本教育長) 本市が培ってきた同和教育、人権教育を若い教員へ継承しながら、子どもを表面的に見るのではなく、家庭と連絡を密に取り、保護者の気持ちにも寄り添いながら、取組を徹底する。具体的な取組について追記する必要があると感じる。

(石井委員) 家庭の状況を把握し、時間をかけ保護者の理解を得ることが重要である。例えば、年度初めの家庭訪問や夏休みの懇談があるが、それ以外にも、児童生徒のことを理解した上で、家庭とコンタクトを取る機会を増やす等の取組を行ってほしい。

(松本教育長) 「家庭の状況に配慮しながら」という個所に、家庭の事情の許す時に家庭訪問をする等、家庭や子どもの状況を理解し、お互いに寄り添いながら子どもにとって望ましい環境を作るという趣旨の文言を追加する。

(浦崎委員) 補充学習の充実について、現在8校において実施し、順次拡充することは平均点の向上につながると解してよいのか。

(横田学校教育課長) ここでの補充学習の実施校は、ひょうごがんばりタイムという、放課後に地域の人材と教員が協働して個別指導を実施する県の事業を行っている学校のことを指しており、それ以外の学校でも、独自に行っているところもある。

(松本教育長) この記載では、ひょうごがんばりタイムという文言がないため、補充学習を独自に行い、努力している学校が埋もれてしまっている。ひょうごがんばりタイムを実施する校数を増やしていく方針について記載する必要がある。

(里見委員長) 問題例の字が小さく読み取りにくい。また、この資料は、保護者へご報告とお願いをするものであるため、今後の取組の「保護者の皆様におかれては、…学習習慣及び生活習慣の定着等にご協力をお願いします」という部分を冒頭に持ってくる等、伝え方を工夫すべきである。

6 報告事項

(1) 被顕彰者の決定について

○堀内文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

進藤輝司様より、三木市史編さん事業の推進のため、図書とスクラップ帳 計534点（16万円相当）を寄贈いただいたので、三木市教育委員会顕彰規則第2条の規定に基づき、感謝状を贈呈する。

(里見委員長) なかなか手に入らないものを寄贈いただき、ありがたいことである。評価額はどのように積算したのか。

(堀内文化スポーツ振興課長) スクラップ帳は評価額が出せなかったが、図書で金額が分かるものを積算した。

(2) 教育政策課報告事項

○大西教育政策課長が次のように報告した。

今後の予定として、平成28年度播磨東教育長会・播磨東地区教育委員会連合会合同研修会を11月28日に教育センターで開催する。京都ノートルダム女子大学学長 芹田健太郎氏を講師にお招きし、「グローバル人材の育成」をテーマにご講演いただく。

(3) 教育環境整備課報告事項

○貞松教育環境整備課長が次のように報告した。

認定こども園・学校の施設整備について、10月末時点の進捗状況を報告する。

認定こども園整備事業について、別所認定こども園外構整備工事は完了、(仮称)緑が丘認定こども園整備工事とよかわ認定こども園整備工事はそれぞれ40パーセントである。

学校施設整備事業について、三木東中学校校舎トイレ改修工事は75パーセントである。

学校給食施設整備事業について、広野小学校給食調理場増改築工事は完了した。

(4) 文化スポーツ振興課報告事項

○堀内文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

みき歴史資料館のイベントとして、歴史ウォーク「東吉川の歴史を訪ねて」を10月23日に開催し、参加者は34名であった。企

画展特別講演会「他地域との比較から見た三木のタイコと祭り」を10月30日に開催し、参加者は81名であった。金物まつり協賛企画として、「わくわくクイズラリー」を11月5日、6日に実施し、参加者は186名であった。また、金物資料館特別企画展共催講座「三木の鉋の歴史について」を11月12日に開催し、参加者は25名であった。

今後の予定として、みき歴史資料館では、ギャラリー湯の山みちの協力のもと、企画展「三木の染形紙展」を12月3日から1月29日まで開催する。それに伴い、ワークショップ「染形紙を彫る」を12月10日に、企画展特別講演会「型紙からみえてくること 歴史・風土・生活」を12月18日に開催する。ワークショップ「クリスマスに飾ろう」～どんぐり工作～を12月17日に開催する。ボランティア企画「お城の大掃除」を12月23日に実施する。これは、みき歴史資料館で活動するボランティアが中心となって清掃活動を行うもので、記者発表を行い、広くボランティアを募集したいと考えている。その他として、レッドボール小学生大会を11月27日に開催する。市史編さん専門委員会（地域編）を12月22日に開催する。

次に、（仮称）三木市立総合体育館の整備工事の進捗状況について報告する。10月末現在で進捗率は12.1パーセントである。今後11月から12月にかけて2階部分の躯体工事を行い、来年1月に屋根工事の鉄骨組みが始まる。順調にいくと7月末に工事完了となる。

（石井委員）市内小・特別支援学校6年生を対象に、子どもたちの芸術鑑賞事業として、ミュージカルを鑑賞する事業が毎年開催され、例年幼稚園児たちも鑑賞に来ていた時期があったが、今年は園児がいなかった。幼保一体化の関係があるのか。

（堀内文化スポーツ振興課長）この事業は、小学6年生を対象としていたが、児童数の減少に従い、空席を埋めるため、幼稚園の5歳児を招待していた。幼保一体化により、市立幼稚園だけというわけにいかず、方針を見直すこととなった。

(5) 図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

絵本と音楽のライブツアー2016を10月23日（中央）、11月3日（青山）、5日（吉川）に開催し、173名の参加があった。三木ゆかりの俳人 伊丹三樹彦氏による講演会「私と三木」を11月12日に開催し、参加者は約150名であった。えいごのおはなし会を吉川図書館で11月13日に開催し、参加者は10名（子ども7名、大人3名）であった。

今後の予定として、作家・福田和代さんの講演会とビブリオバトルを、11月23日に中央図書館で開催する。図書館ともの会三木の主催である。絵本講座を11月25日に中央図書館で開催する。みきだっこで絵本の会主催である。

（石井委員） えいごのおはなし会やビブリオバトルは、英語に親しむことや表現力を養う等、よい教育機会となるので、学校現場でも活かせるような連携を図ってほしい。

（伊藤図書館長） ビブリオバトルについては中学生以上を対象に募集しており、高校へ出向きPRを行った。今後は、学校とも連携し、小学生が参加できるような機会を検討していく。

（里見委員長） 三木市には教育施設が多くあるので、学校との連携、生涯学習との連携等どんどん広げていってほしい。

(6) 学校教育課報告事項

○横田学校教育課長が次のように報告した。

第8回校園長会を11月9日に開催した。学校主要行事として、各小学校の修学旅行が10月18日から順次実施されている。各中学校で文化祭が10月28日、29日、11月3日にそれぞれ開催された。研究発表会が口吉川小学校で10月27日に開催された。東播磨・北播磨地区中学校技術・家庭科教育研究大会が11月1日に開催された。また、トライやる・ウィークを11月14日から18日にかけて実施している。

今後の予定として、小・特別支援学校連合音楽会を11月18日に開催する。また、11月24日に、別所小学校及び市内史跡等で管内視察を実施する。

(7) 教育センター報告事項

○大東教育センター所長が次のように報告した。

教育センターの事業では、専門研修講座を2回開催した。不登校対策適応教室には、11月1日現在で8名が在籍している。

青少年センター事業では、人の目の垣根隊との意見交換会を5校で実施した。今後の予定として、人の目の垣根隊との意見交換会を5校で実施する他、ママさんパトロールを12月3日に行う。また、北播磨補導委員統一活動を12月17日に実施する。

(8) 就学前教育・保育課報告事項

○成瀬就学前教育・保育課長が次のように報告した。

第8回三木市保育協会理事会を11月9日に開催した。特定教育・保育施設入所申請受付を11月15日、16日に実施した。

今後の予定として、第三者評価と監査を引き続き実施する。第9回三木市保育協会理事会を12月8日に開催する。

次に、小規模保育事業実施予定地が決定したので報告する。実施場所は市内5か所で、運営する認定こども園は、エンゼル、神和、ひろの、羽場、えびすである。エンゼル認定こども園は、既存施設の改修、その他4施設はプレハブリース型となる。いずれも実施面積は100平米から150平米内とし、プロポーザル方式で業者を選定し、平成29年4月開園に向けて調整を進める。

(里見委員長) 小規模保育施設の申込については、設置主体者である各園が調整を行うのか。

(永尾こども未来部長) 調整は市教委で行う。まだ建物が建っていないこともあり、募集をしていないが、今後5か所の認定こども園に希望された方で本園に入れなかった方からPRをしていく。

(9) 子育て支援課報告事項

○井上子育て支援課長が次のように報告した。

官民協働による「三木市子育てハンドブック」共同事業者選定プロポーザルの結果、株式会社ホープに決定し、11月14日に協定を締結した。平成29年3月末の発行を目指す。4月以降、認定こ

ども園、幼稚園及び保育所の保護者や新たに妊娠された方に配布する予定である。

児童センター事業として、第8回じどうかんフェスタを11月13日に開催し、参加者は530名であった。兵庫県児童館連絡協議会主催である。

今後の予定として、多世代交流拠点施設整備事業の設計・施行に係るプロポーザルを11月から12月にかけて実施する。12月下旬に契約締結、平成29年3月を目途に実施設計を終え、4月から9月に整備工事を行う。

(里見委員長) 「三木市子育てハンドブック」は共同発行者として、業者の名前が表に出ることになるが、中身については市が責任を負うものである。問題は無いか等、検討はされたのか。

(井上子育て支援課長) ハンドブック内の広告は業者が取るようになるが、兵庫県健康福祉事務所のパンフレットを作成する際の広告の規定があり、審査を受けた上での選定となるため、不適切な広告が載ることは無い。

(永尾こども未来部長) 原稿や情報は全て市から提供するため、業者が子育てに関して記載することは無い。

(里見委員長) 中身を検討する専門家はいるのか。また、決定はどこでするのか。

(井上子育て支援課長) 既存の子育てハンドブック(A6版)をベースに新たに遊び場情報や地図等を加え、より見やすいA4版のものにする予定である。

(里見委員長) 市としてゼロ予算事業のいい先例を作ってもらおうよう期待する。

7 その他

次回教育委員会定例会の開催日時について

委員長が、次回の教育委員会定例会の開催予定日時について諮り、平成28年12月16日、午後2時から開催することを決定した。

8 閉 会

委員長が、平成28年11月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。